

# 加治丘陵の保全・活用

埼玉県ネイチャーポジティブ推進分科会 交流会資料



令和7年10月21日

入間市 都市整備部 都市計画課

# 加治丘陵の特色

- ▶ 埼玉県入間市の北西部に位置し、飯能市、青梅市に接している約460haの丘陵地。
- ▶ 多くの野生生物が生息する自然の拠点であり、昔から人々の生活と密着し、入間市の文化を支えてきた「里山」。
- ▶ 加治丘陵さとやま計画に沿って保全・活用を目的とする公有地化を進めており、令和6年度末で公有地化率は約31.6%。
- ▶ 自然環境と調和し、市民に広く利用される入間市のシンボリックな自然公園として、(仮称)加治丘陵さとやま自然公園の整備を進めています。
- ▶ 一部が首都圏近郊緑地保全区域と県立奥武蔵自然公園区域に指定されており、開発行為の制限による自然環境の保全が図られています。



## 入間市の概要

位置：首都圏の北西約40km圏、埼玉県南端の中央  
 人口：142,456人（令和7年10月1日現在）  
 面積：44.69 km<sup>2</sup>（東西9.3km、南北9.8km）  
 自然：北部に加治丘陵、南部に狭山丘陵を有する。

入間市加治丘陵保全・活用基本計画 加治丘陵さとやま計画

土地利用計画図（ゾーン区分図）

凡	例	
彩色	名称	面積
緑	自然体験区域(さとやま自然公園)	約 110ha
黄緑	自然環境研究区域	約 21ha
黄	自然活用区域	約 137ha
青	自然観察区域	約 116ha
オレンジ	文化交流区域	約 40ha
計	加治丘陵さとやま計画区域	計 424ha

# 加治丘陵の抱える課題

## ▶ 課題① 行政の財政事情

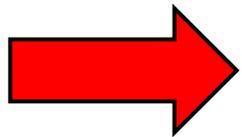
- 公有地化の継続が困難で方針転換期にある。国費補助を活用し、規模縮小しつつ継続している。
- 山林の維持管理が遊歩道沿いなど最低限に止まり、階段や看板等の施設更新による魅力度UPの取り組みが困難。
- 道路や民家沿いの維持管理経費が、人件費上昇により増加傾向にある。

## ▶ 課題② 山林管理の担い手不足

- 山林管理ボランティア団体の高齢化、新規加入者不足、資金不足により団体数が減少している。
- 民地所有者の高齢化や代替わりにより、未活用地の増加傾向がみられる。
- 外部への情報周知など、山林管理に係る新規団体の参入を醸成する土壌が乏しい。

## ▶ 課題③ 未活用資源の増加

- 公有地の計画的な伐採や山林更新が未実施のため、林相転換や伐採更新が図られていない。
- ナラ枯れ被害により伐採した木が各所に残地されており、丸太の搬出や公共性に配慮した利活用方法を検討中。
- 解散した団体の活動地、寺竹配水場跡地など、山林の再整備が行える土地の利活用を検討中。



加治丘陵の自然を循環的に守り活かす  
ネイチャーポジティブの取り組みを通じて、  
入間市全体の自然環境課題の解決を図る！！



# 企業と市の活動協力例

## ①山林活動の協力

### ▶ 維持管理活動への協力

- ・ボランティア団体と協力し、下草刈り、伐採、清掃等の山林活動の実施
- ・団体活動跡地等で山林管理や体験活動の実施

### ▶ 既存施設の修繕・更新

- ・階段、手すり、遊歩道路面、四阿、ベンチなどの破損個所の補修
- ・加治丘陵各所の看板、案内板等を更新し、利用者への魅力度UP

### ▶ 未活用地の森林再生

- ・寺竹配水場跡地や団体活動跡地で植樹活動、土留め、階段、四阿などの施設整備



## ②企業技術の活用

### ▶ 活動例

- ・山林ガイド、山遊びイベント等の事業開催
- ・周辺の商業施設、商店街、ツーリズム事業等との連携
- ・各所に残地されている倒木や枯損木を加工し、商品として再活用
- ・森林の保全活用に関する情報発信や講演会開催による普及啓発活動



## ③資金提供による協力

### ▶ 資金の活用例

- ・ボランティア団体による下草刈り、伐採、施設更新等の山林管理活動への活用
- ・山林や自然に関係する講演会、体験教室などの、イベント開催への活用
- ・加治丘陵マップや案内看板作製への活用

